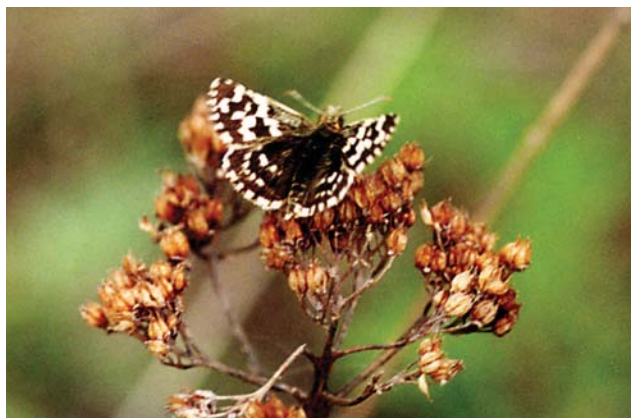


チャマダラセセリ

Pyrgus maculatus maculatus

セセリチョウ科



チャマダラセセリ

撮影-吉原利之

名前の由来

茶色と白の斑（まだら）模様のセセリチョウの意味。セセリは「せせる（つつく、刺す、あさるなどの意）」に由来する。漢字名：茶斑拵

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

翅の表はこげ茶色で白い斑紋があり、裏面はやや明るい茶褐色に白い斑紋のある小形のセセリチョウ。



チャマダラセセリ。表（左がオス、右がメス）



チャマダラセセリ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

類似種と見分け方

ヒメチャマダラセセリ。

ヒメチャマダラセセリは日高山脈アポイ岳周辺で分布が確認されている。ヒメチャマダラセセリは前翅表第2室基部の小白班を欠き、後翅裏面中央部に白色条は形成されない。

生活サイクル

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 卵期 | | | | ■ | | | | | | | | |
| 幼虫期 | | | | ■ | ■ | | | | | | | |
| 蛹期 | ■ | ■ | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 成虫期 | | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | |

生育環境・分布

比較的開放的な明るい草地、スキー場、送電線の刈り込み、道端など。

分布：国外分布は、ロシア極東地域、中国大陸、朝鮮半島、ミャンマーなど。国内分布は、北海道（東部）、本

州（東北から中部山岳）、四国。北海道内分布は、道東から道央。

十勝地方では、平野部に分布するが数は多くない。

繁殖生態・寿命

年1回の発生。平地から低山帯では5～6月、山地では7月に出現。越冬態は幼虫。

母蝶は食草の小さな株に止まり、翅を120度ぐらいに開いて、腹を深く曲げて葉裏に1個づつ産卵する。

幼虫は若齢時から葉をつづって巣を造る。8月上旬に観察すると、終齢幼虫が比較的大きな株の地表から離れた

葉を数枚つづり合わせている。巣を刺激すると幼虫は体をJの字に曲げる。蛹化は巣の中で行われると言われている。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はキジムシロ、ミツバツチグリ、ミツモトソウ、キンミズヒキを食草とする。

*成虫の吸蜜植物はセイヨウタンポポ、キジムシロ、ムラサキツメクサ、エゾノタチツボスミレなどのほか多くの種が確認されている。

*天敵についての報告はない。



キジムシロ。チャマダラセセリ幼虫の食草の一つ

幼虫の食性（食草）

キジムシロ、ミツバツチグリ、ミツモトソウ、キンミズヒキ。

興味深い話

■チャマダラセセリの幼虫は葉をつづって巣を造り、その中で葉を摂食する。おもしろいのは糞をする時で、勢いよく糞を巣から外に飛ばす。その勢いは飼育していると容器に糞がぶつかって音がするほどである。この蝶をきれい好きな蝶というべきか、ものぐさな蝶というべき

だろうか。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

キジムシロ、ミツバツチグリ、ミツモトソウ、キンミズヒキなどの食草の自生地が必要。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978
「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984
「学研生物図鑑 昆虫Ⅰチョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅳ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1984
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類